

三星刃物 国内本格展開

自社ブランド包丁を新開発

使いやすさ、研ぎやすさ追求

刃物製品を欧米向けに相手先ブランドにより供給(OEM)している三星刃物(関市下有知、渡邊隆久社長)が、国内市場の開拓に乗り出した。1873年の創業以来初となる国内向け自社ブランドの包丁「和 NAGOMI」丸 MARU」シリーズ」を開発、9月に販売を開始した。手作業が多く、月1千本のペースで生産しているが、来年中に月産2千本まで高めていく方針。(山田孝二)



三星刃物が開発した包丁「和 NAGOMI」丸 MARU」シリーズ」

同社は欧米向けのOEMで大量生産するビジネスモデルを展開。自社ブランド開発は、価格競争に巻き込まれ

ないよう経営の柱の分散を図るとともに、作り手の思いを主張するため3年かけて開発した。

包丁はいつか切れなくなるのがユーザーの悩みのため、「丸 MARU」シリーズは、家庭での研ぎやすさ、使いやすさ、疲れにくさを追求。刃は切れ味を長持ちさせるため硬い材料がトレンドだが、研ぎやすくするため敢えて適度な硬さの材料を使い、その中で硬度を追求し切れ味を実現。重くも軽過ぎも



せず、握りやすい形状で、特に海外で人気のハンドルは一本一本を手作業で磨き上げている。三徳、ペティ、パン切り用の3アイテムを先行発売、さらに3アイテムを11月中旬にも発売する。

自社ブランドは約4年前、海外向けに「和 NAGOMI」シリーズを開発。タマスカも丸 MARU」シリーズと呼ばれる製品

国内市場を開拓した上で、来年2月のドイツ・フランクフルトの展示会に出展し、海外でも丸 MARU」シリーズの展開を目指す。